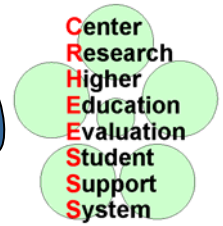


# 週刊センターニュース No.184



第184号(2007年11月26日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## ○●○ 第166回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 2007年12月4日(火) 14:45 - 16:15

場所: 角間キャンパス総合教育棟南棟1階小会議室(管理係前)

テーマ: 来年度からの初年次環境教育、安全衛生教育について

報告者: 西山宣昭(大学教育開発・支援センター)、森 茂(環境保全センター長)

趣旨: 大学・社会生活論において、環境教育が取り上げられ過去2年授業が行われてきたが、その効果を検証し、来年度の授業内容について議論する。また、より広く安全衛生に関する内容も環境教育に含みこむ可能性についても議論したい。

大学・社会生活論の環境教育の内容の再検討について、多くの教員の参加、ご意見をお願いしたい。

## ○●○ FD と教員の教育業績評価について ○●○

中央教育審議会大学分科会「学士課程教育の再構築に向けて(審議経過報告)」(平成19年9月18日)については、これまでも本「週刊センターニュース」において取り上げられてきたところです。今回は、同報告が、FD と教員の教育業績評価を有機的に関連づけている記述を包含している点に着目し、その該当部分を紹介すると共に、簡単にその意義についてふれておくこととします。

同報告は、「第2章 改革の基本方向」の箇所で、総論的に、「教員が、多様化する学生に対して適切な教育指導を行うためには、教授法に関する不断の研究を行うことが一層強く要請される。教員の組織的な研修(ファカルティ・ディベロップメント(FD))の実施が、各大学に義務づけられることになったが、これを契機として、各大学では、FD の在り方を主体的に見直すとともに、教員評価の在り方等を含め、教員の教育力向上に向けた取組を総合的に進めていくことが重要」と指摘しました。ここでは、FD と教員評価を連結させて実施することの重要性を説いた点が、注目されます。

そして、「第3章 改革の具体的な方策 第4節 教職員の職能開発」の箇所で、「FD を実質化するためには、教育業績の評価を適切に行うことが不可欠である。教育業績の評価は、研究業績の評価に比して難しい面があり、諸外国でも様々な試行錯誤が行われている。我が国では、未だ普及の途上にあるが、ティーチング・ポートフォリオ(大学教員による教育業績記録ファイル)など、諸外国の先進的な取組の経験を踏まえるならば、特定の指標によるのではなく、多面的な評価を工夫していくことが必要である。また、学生による授業評価の結果は、業績評価の指標としての信頼性には課題もあるが、教員の自己評価やFD の活動に生かしていくことは重要」との指摘を行いました。ここで重要なことは、FD を効果ある営為として実質的に機能させていく上で、教員の「教育業績評価」の適切な実施

が不可欠である、とした点です。そして、そこに言う教員の「教育業績評価」が、上記・総論部分で言及された「教員評価」の一部をなすものとして措定されていることは、疑う余地がありません。もとより、教育業績評価に当り、多面的な評価の手法でこれを行う必要性についても強調されています。

なお、同報告書は、FDの実質化に向けた「改革の方策」として、「FDの推進に資する大学教育支援のナショナルセンターの設置について研究する」旨を述べています。こうしたFDに係る国のセンターが設置・運営されることにより、今後ますます、FDと教員の教育業績評価を有機的に関連づけていこうとする動きが加速化していくものとも考えられます。

(文責：評価システム研究部門 早田 幸政)

### ○●○ 新着図書・資料のお知らせ ○●○

大学教育開発・支援センター図書室（総合教育棟南棟6階613号室、センター共同室の向かいです）に、以下の図書が入りました。当センターでは、国内外を問わず、大学教育に関する資料の収集を行っております。図書室に所蔵されています図書・資料の貸出・閲覧が可能ですので、是非ともご活用下さい。

- ・ 高校生のための東大授業ライブ / 東京大学教養学部編、東京大学出版会、2007年
- ・ 16歳からの東大冒険講座・1 記号と文化／生命、培風館、2005年
- ・ 16歳からの東大冒険講座・2 情報／歴史と未来、培風館、2005年
- ・ 16歳からの東大冒険講座・3 文学／脳と心／数理、培風館、2005年

※上記の書籍の書誌情報は、<http://high-school.c.u-tokyo.ac.jp/book/index.html> で参照できます。

### ○●○ 高等教育に関連する研究会・セミナー情報 ○●○

・ 12月3日（月）12:30～15:00 高等教育研究フォーラム「成人学生マーケットと大学ー潜在需要をどう発見し、活かすか」（IDE大学協会、東京大学大学院教育学研究科大学経営政策研究センター）  
会場：東京大学赤門総合研究棟2F A200講義室（東京都文京区本郷7-3-1）

話題提供者：C. ホーピー（ノースイースタン大学成人継続教育学院長）※日本語要約あり

申込・問合せ先：IDE大学協会事務局

TEL&FAX (03) 3431-6822、Email: [ideforum200712@ide-web.net](mailto:ideforum200712@ide-web.net) 締切日11月30日（金）

※詳細は、<http://www.ide-web.net/event/index.html#1203> を参照

- ・ 12月8日（土）13:30-17:00 国際シンポジウム「大学コミュニティの創造：学生参画における学生の成長と発達」（同志社大学学生支援センター）

会場：同志社大学今出川校地寒梅館ハーディホール（京都市上京区今出川通り烏丸東入）

アクセス方法は[http://www.doshisha.ac.jp/access/ima\\_access.html](http://www.doshisha.ac.jp/access/ima_access.html) を参照

基調講演：絹川正吉（国際基督教大学名誉教授、前学長）

パネルディスカッション：リチャード・マレンドア（ジョージア大学前副学長）、ハワード・ウォン（カリフォルニア州立大学副学長）、山田礼子（同志社大学教育開発センター所長）

問合せ先：同志社大学学生支援センター京田辺校地学生支援課 TEL0774-65-7021

申込み：FAX0774-65-7024、又はメール[jt-shien@mail.doshisha.ac.jp](mailto:jt-shien@mail.doshisha.ac.jp)、締切日11月30日（金）

※詳細は、<http://www.doshisha.ac.jp/academics/activity/simpol208.php> を参照